

タウンミーティング（氷見地区） 開催報告

- 日 時 令和元年 10 月 2 日（水） 午後 7 時から
- 場 所 氷見公民館 2 階ホール
- 参加者 氷見地区連合自治会長、防災士会長、氷見人権教育推進協議会長、氷見小学校 PTA 会長、JA 氷見女性部長、氷見地区連合自治会副会長、公益会理事長、社会福祉協議会氷見支部長、民生児童委員氷見地区会長、消防団氷見分団長、長友会長、青少年健全育成協議会長
市長 経営戦略部長、市民協働推進課長、市民協働推進課協働推進係長
シティプロモーション推進課長、シティプロモーション推進課広聴係長、政策企画課政策企画係長
- 傍聴者 20 人
- 次第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（氷見地区連合自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 市の主要事業について《市提案》
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 5 地域課題①「これからの地域づくり」について《市提案》
 - (1) 課題等の経緯等内容説明（市民協働推進課長）
 - 6 地域課題②「氷見の取り組み」について《地域提案》
 - (1) 地域からの説明
 - (2) 意見交換
 - 7 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（氷見地区連合自治会長）

○会議録

2、3 挨拶

【連合自治会長】

皆様こんばんは。お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。

最近、氷見の行事となると、8 月のお盆野球は、台風が直接来て中止、9 月 22 日の敬老会は、済んだ後に台風で夜中に停電が一部あった。今日、タウンミーティングだったが、台風が接近しどうなるかと思いながら、今日一日考えていた。

このタウンミーティングは、西条市連合自治会と市が主催となり、地域が主導して開催するもので、市長に地元にお出ましをいただき、市の現状や今後の市政方針の説明に加え、地域住民と市と一緒に地域の課題について話し合うことで、私たちの声を活かした愛着を持てる地域づくりを行うこと。つまりは、市長方針にある「ワクワク度日本一の西条」の実現に繋げていくということかなと思う。

今日は、これからの地域づくりと、氷見の取り組みについて話し合う。氷見の場合は、事前に氷見クラブという、17 団体が集まって氷見全体の共通課題を解決するような、組織を作っているが、それも含めて後ほどお話をさせてもらいたい。

今日は、次回に繋がる会議となるよう皆様のご協力をいただきながら進めてまいりたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

【市長】

皆様こんばんは。本日は、本当に足元が悪い中、氷見地区のステークホルダーの皆様、そして、傍聴席には地域の皆様にも参加をしていただき、このタウンミーティングを開催できることを、本当にありがたく思っている。

タウンミーティングは、6 月 22 日からスタートし約 5 か月間に 28 地区で進めているが、手探りの状態である。より良い地域にしていくためにという思いで今回臨まさせていただいており、市民の皆様からの多くのご要望について、予算で反映できるところについては、次年度予算に反映していければと思っている。

会長の強烈なリーダーシップもあって、氷見クラブができていくという話を伺っているが、これからの地域づくりというのは、地域の課題を一つの団体だけではなかなか解決できない事態になっているということで、地域の皆様が協力をしながら、そして、行政は一緒になってまちづくりをしていきたいと思っているので、どうか、引き続きお願いをしたい。

今日は、限られた時間だが、有意義な時間としたいと思うので、お付き合いのほどをよろしくお願い申し上げて、挨拶にかえさせていただく。よろしく願います。

4 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】(参照別紙資料 (1))

5 地域課題①「これからの地域づくり」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【市民協働推進課長】(参照別紙資料 (2))

6 地域課題②「氷見の取り組み」について《地域提案》

(1) 地域からの説明(参照別紙資料 (3))

【連合自治会長】

連合自治会長に就いて、5年目に入った。5年前に、公民館の連絡会というのがあって、そこに15~16団体がきていて、それぞれ団体に活動されているが、その活動をバラバラで動かすのはもったいないと思っていた。

世の中には、人がいない、年寄りが増えた、役員の担い手がいない等、いろいろな問題があるが、それを何とか解決したいと思っていた矢先、一昨年、桜井先生の講演会があった。氷見からは、私を含めて5人ほど出席させていただき、やっと市の後ろ盾ができたということで、去年は公民館建設中で忙しかったので、今年、この新しい公民館で、ちょっと暴走したのだが、作っちゃえというようなことで、氷見クラブを作らせていただいた。

氷見クラブは、公民館の協力団体16団体と、JA女性部に入っただき、17団体で構成している。まちづくり戦略としてなりたいた姿、最終的な姿を、満足という切り口で考えてみた。住民満足、団体満足、地元企業満足、行政満足。この間にはどうしても埋めきれない(赤い)部分がある。この赤い部分を埋めていくことが、地域コミュニティの戦略かなと思う。そこには、問題や課題が多分あり、共創・協働ということが働くだろうと思っている。目指していくのは、住民はもっともっと参加しよう、団体同士がもっともっと繋がろう、地域と市役所がもっともっと繋がって進めていこう、ということで、この戦略イメージを描いた。

我々の活動方針は、市長方針「ワクワク度日本一のまち西条の実現」に整合性を持たさないといけないので、こんな方針・使命を作ってみた。使命は、「安全で安心して住み慣れたまちですとずっと暮らしていけるまちづくり」。これは、落成式の時にも話させてもらったが、活動方針が「はらはらどきどきが爆発するまち氷見の実現」。「はらはら」は、あの会長何をするんだと。危ないことないかなとか。「どきどき」は、やって良かった、次は何をやってくれるんだろうかなという期待感が爆発するまち氷見を実現し、市長方針の「ワクワク度日本一のまち西条」に繋げていきたいと考えている。

「なりたいた姿」の手前の「ありたいた姿」。これを当面進めていきたいと思うが、各団体の間には(赤い)隙間ができて、これを単独で活動するとなかなか解決できない。では、団体同士に横串を刺して、一緒に考えて一緒に解決を図ろう。まずは団体の基盤整備を今年進めていきたい。後ほど、団体についての課題を提案させていただくが、そのような活動を通じて、これからの次世代を担う人材の発掘・育成を進めていきたいと思っている。拠点は氷見公民館、コーディネートは私の方で進めさせていただきたい。そのように考えている。

近々の課題としては、単独の団体活動から団体連携による活動。それから、やはり大事なものは、後継者の育成及び次世代を担う人材の育成が急務だと思う。各団体間に横串を刺して、一緒に考えて、一緒に未来を作っていこうということで、進めていきたい。

次に、「ありたいた姿」の横串を刺すには、切り口を分野で考えて、例えば、総務分野とか、社会福祉分野とか、まちづくり分野とか、交通・防犯分野とか、分野別に問題解決、課題達成、地域で決めて地域でつくる。そんな地域力を作っていきたい。大変申し訳ないが、市も縦割り行政から、横串を刺す横割行政へ一緒にしてくれないか、部分最適から全体最適を目

指そう。今の氷見のまちづくりという切り口の例だと、今、氷見が宿題をいただいているのは、「景観まちづくり」、「地域コミュニティまちづくり」、12月22日には「防災訓練」があり、単独ではできないので、防災クラブというのを作ったが、そうなってくると、所管のいろいろな課が混在してくるので、できれば横串を刺していただいて、一緒に考えていただけたらと考えている。

人口の問題は、先ほどからたくさん出てきているが、高齢者人口が21%を超えると、超高齢社会なのだそう。氷見について、過去10年ほど調べてみると、平成22年3月は1,362人で31.6%、この3月も更に少なくても37%で、氷見のまちは、ずっと超高齢社会が進んでいる。あと数年もすると40%、下手したら50%。今3人のうち1人は高齢者で、5人のうち1人は75歳以上の年齢構成になっている。

若い人にこれからのまちづくりを期待するところではあるが、こういう背景を見ると、これからも高齢者層の出番、活躍の場があるのではと感じている。

現状と課題では、人材・団体と基盤整備だが、人材や団体の問題は、市でまとめていただいた「地域コミュニティのあり方」を抜粋しているが、先ほどの人口の問題でもあったが、現実には、やはり高齢者が多い。これからの活動テーマは、若者が活躍する場を作っていきたいが、結局、高齢者にも活躍してほしいということで、この氷見クラブについては、活動を進めていきたい。地域づくりの取り組みについては以上である。

(2) 意見交換

【連合自治会長】 テーマ提案の説明（参照別紙資料（4））

氷見クラブの中でテーマを考えるということで、過去4回ほど会をもち、団体の今抱えているような問題を拾っていった。

最初に民生委員の役の担い手不足の問題があり、人材の不足や、特定の人に集中する、担い手を探すのに苦労する等々、いろいろな意見があった。

今の氷見の役の選任方法は、連合自治会役員は、単位自治会長の中から会長経験者から選任する。単位自治会は、各自治会で選んでくるので、今のところ、そんなに苦労はしない部分がある。役員は、沢山の先輩方に非常に協力していただいているので、毎年そんなに苦労した覚えはない。ただ、人権教育推進協議会の前任者が辞める時に後任者を決めておらず、結局、人が見つからないため、3年ほどリリーフで登板したが、今年、校長先生が定年になり、引き継いでくださった。青少年健全育成協議会も、人権も青少年も、結局、充て職が多く、役員もいろいろな団体の掛け持ちというのが現状だろうと思う。その評議員は一昨年までは、単位自治会長が自動的にになっていたが、自治会長ばかりに押し付けるのも大変だったので、去年から評議員等は副会長にでももらうようにしている。

その様な中で、民生委員のなり手が無いという話を、前会長からも、今回の改選時期にも聞いた。調べてみると、全国的にどこの地区も同じような傾向で苦労しており、充足率が97%くらいのところもあるそう。なり手が無い理由として、人口減少や高齢化、我々の年代の雇用延長等で仕事にまだ行かなければならないということ等のようなようだ。また後継者を育てていくという仕組みがないのも理由だろうと思う。

そこで、いろいろと探している中、千葉市で民生協力員制度の補助のような制度を見つけた。給料はないが、活動実費弁償費で月1,000円支給があるらしい。もう一つは、市で健康づくり推進員もある。担当課は違うが、地域の問題として、他の団体も協力員の制度と義務付けていただくような制度も考えていただけたらと思う。

民生委員に電池を変えてとお願いするという話も聞いたことがあるが、別の組織で、例えば地元の青年団のような組織で、お助け救助隊みたいな制度があっても面白いのではないかなと思う。

費用の捻出方法として、毎年敬老会行事をしているが、氷見地区の参加者数は、新しい公民館ができたので期待をしていたが実際は117名だった。75歳以上の対象者は逆に、5年前は841人で今858人と増加している。現状は対象人口が増加の傾向で、反対に来場者は減少傾向にある。欠席の要因は、病気等で入院して出席できないこともあるが、行事への価値観も変わってきている。余暇の使い方、自分の時間の使い方、他にも行事があるので、別に敬老会へ行かなくてもいいよといった話も聞いた。また、敬老会という表現が年寄りのイメージがあり抵抗のある人が多い。

敬老会にかかる費用の面では、氷見は1人当たり2,000円で170万くらい、市全体では

18,149人ほどで単純に計算すると、3,600万円かかるのではないか。敬老会をするかしないか、ちょっと極端かもしれないが、一度アンケートの実施を検討してはどうか。静岡市では、賛成という声は非常に少なかったようだ。その分の費用をどこに充てるか、静岡市は子育て世代の支援や高齢者へ違うサービス、充実策というようなことの見解が多く出ていた。別の都市では、対象年齢を77歳、80歳へと段階的に引き上げるというのが載っていた。

日本の80歳の人口が、2050年か2060年くらいまでずっと増え続けるそうだ。1人当たりの費用の再考。民生委員の負担を軽減するために、そんな協力員制度のようなものを考えていただければと思う。

【市民協働推進課】

少子高齢化、人口減少時代の中で、民生委員への負担が大きくなっているということ、また敬老会行事をはじめ各行事を、時代に合わせて変えていき、本当に必要なことに力を入れてお金を使っていないといけないとのご提案だったが、他にどのように感じておられるか。

【参加者】

なり手がないということは、おっしゃられたとおりでが、昔のイメージで、民生委員は立派なおじさんがするお仕事だと解釈されて、「私なんか」という意見が多い。そうではなく誰でもできることなので、やってよと言うが、若い人は勤めや介護の問題があり、なかなか気軽に引き受けてもらえない。これを、組織づくりで若い担い手をつくっていかなくてはいけないと思うが、若い担い手と話す機会も割合ない。現在の民生委員はお年寄りが多くなっているの、そういう話し合いの機会をつくっていただければ、民生委員に対するコマーシャルもできる。

また、この頃課題にもなっているが、一人世帯の老人世帯が多く、この方たちの見守りが大変で、お金の毒にこの世とお別れをするようになった場合に身内がない、連絡先もわからない、お金の場所もわからない、お葬式をするのにも何とか手段があればと思う。生活保護を受けておられる方は、市で動いていただき後の始末までちゃんとしてくれるが、国の世話にはならないと頑張っている方が悲しいことになった場合、お悔みや家の片づけぐらいはできるがお金までは出すことはできない。もし貯金があってもなくなった後では引き出せない。なにかいい方法はないか。

【参加者】

自分も今60代で、勤めているところから70歳まで来てくれと言われている。70歳まで仕事して、それからまだ自治会の役もして、それはもう大変だ。そこを皆さん、どう考えておられるか伺いたい。今からだんだん定年延長されていくので、今は何とかできているが、あと5年、6年経った時に、自分がそこの場でもつかなと思ったりする。私たちも高齢になっていくのだから、早急に民生委員の課題を解決しないと、結局、若手が出て来てくれるか、また、出てきてくれるようにしなくては、どうしようもできなくなるのではないかと思う。今、そこをじっくり話し合った方が解決には早いのではないか。

【参加者】

長友会には様々な人がおり、60歳から加入が可能だが、参加してくださるのは70歳以上という感じ。長友会の位置づけとしては、最後まで仲間を作って楽しく老後を送っていくことを目標にしている。いろいろな老人サロンの面もあるが、高齢化社会で何とか地域に奉仕もしていかなくてはいけないし、自分たちの健康も守っていかなくてはいけないし、1人にならないように友達を作っていかないといけない。

老人クラブの活動のスローガンが「健康・融和・奉仕」なので、それに沿ってやっているが、試行錯誤を繰り返しながら1人にしないような広域づくりの一環として、市の援助も得ながら自分たちの自助努力でやっていきたい。

役員のなり手については、そう大した役ではないが、皆を引っ張っていく、皆を孤独にしない、繋げていくというようなお世話役の人といった感じであまり深刻にせず、これを絶対しなくてはならないというような組織ではなく、楽しく自分たちの自助活動の中での役割を担ってくれる人は、僕らの努力で作っていいのではないかと思っている。

【参加者】

先ほど言われた三世代だが、うちは大部落で私が若い頃には愛護班、今は子ども会になっているが、それと自治会、老人会があった。当時、私が45歳になった時に、青年部を退いて老人会に入るまでの中間世代で親睦会ということで、西町の会をつくり約30名いた。その会が、この年になってまだ続いている。西町自体は人口が多いので、それぞれの会が集会所も

よく使って集まっていた。しかし、いつでも仕事帰りにできていたのが、若干年をとってきて、役職に就いたりして飲む機会は減ってきた。三世代の付き合いというの、やはりだんだん減ってきている。氷見自治会で考えても、近隣の部落も子どもがいない。大人もいない。三世代とかいう以前の問題で、3年に1回祭りの総代が当たるとか。人口がいないから仕方がないが、どうしても押し付け合いになる。自治会長も昔のように、あの人をお願いしたら何でもやってくれるだろうという、氷見流の昔ながらの考え方が時代とともに変わり、よそも2年に1回だから、うちもそうしようみたいな話になってきて、氷見自体の付き合いというのが昔と比べたら減ってきている。私も役をしている以上、交流会も自治会の会も出られる限り出て、年とっても祭りもまだ現役でやっているし、お付き合いもさせてもらっているが、若い人はどうしても自分に降りかかって、どうしても出なくてはいけない行事や会には来るが、行っても行かなくてもいいという会は昔の半分くらいになっていると思う。祭りの会だと、秋の総会は決め事が祭りのお弁当や役の割り振りが多いため、行って役が当たるよりは行かない方がいいという考えの人がいて、そういうのもだんだん寂しくなっているのが現状だと思う。

【市民協働推進課】

だんだんと、若い方、子育て世代の参加が昔と比べて減っているのではないかというお話だが、この中で子育て世代、氷見の今の若い方の現状、地域のかかわり方など、どのように感じているか。

【参加者】

多分、以前に比べると、小学校の会自体もなかなか参加していただける人数は減ってはきているが、それは多分、共働き世代が増えてきたので都合がつかず出られないとか、今、子どもが特に習い事等あり、夜に出る回数が非常に多くなっているからではないか。習い事等があり、その送り迎えというような形になると、なかなか会自体があっても出られないという家庭もあると思う。ただ、その中でも、どうにか工夫して出て来てくれている家庭の方もいる。大事な会には、どうにか調整しているのだろうから、会自体がどうしても必要であって全体的に出てもらわないと困る会なら多分出て来るので、そのような工夫も必要なのかもしれない。学校行事でも、子どもに関係するものだったら出て来てくれるので、どうにか子どもに関するようにこじつけて、保護者の方に来てもらうような形をとっている。自分たちがしなくてはいけないと感じてもらうのも大事ではないかと思ひ、小学校のいろいろな会等に出席してもらうように努力はしている。

【市民協働推進課】

忙しい中でも、出やすい環境や、出る意義をしっかりと理解するなどの工夫で、もう少し子育て世代もかかわっていただけるんじゃないかというご意見。

【参加者】

JA女性部は、皆、本当に楽しく和気あいあいとやっており、13年前当初に68人の部員だったが、今は104人に増えている。最初は私が健康づくり推進員を通して声掛けしていたが、今は自然的に声を掛けて人を集めてくださっている状態で、楽しければ人は集まって来てくれる。高齢化もあるが、人は増えている現状で感謝している。こういう役職をもらった人間が偉いのではなく、支えてくれる皆がいて自分が上に立たせていただいているという感謝の気持ちが大事なのではないか。

民生委員のなり手がいないのは、民生委員の仕事は何だろうという疑問がそこにあり、周りから聞いた話や思いこみで、独居老人が亡くなると呼び出しや、何か問題があると民生委員がちゃんとしてないからと言われるから、なりたくないという現状になるのだと思う。民生委員の仕事のマニュアルとか、ここからここまでは民生委員の仕事だけれども、ここからは違うということ、きちんと皆に知らせることも大事ではないだろうか。なぜしたくないかという声を吸い上げて、問題点を一つ一つ改善していくと民生委員に対する周りの目や、考え方の価値観も変わっていくのではないかと思う。まずは、問題点を見つけて解決していく方法が一番いいのではないかと思う。

【参加者】

医療費も歯科のお金も控除されて、今の子は恵まれていると思う。しかし、お年寄りが楽しみにしていた3,000円が消滅したことに、申し訳ないがこの場をお借りして憤りを感じている。皆さんかなり楽しみにされていたと思うので、また別の形で貢献していただいたらすごくありがたいと思う。今のお年寄りがいて今の氷見があるので、高齢者を大切にしていた

だけの施策も考えていただけると、生きる楽しみや生きがいもできるのではないかと思うのでご検討をよろしくお願ひしたい。

【市民協働推進課】

ご商売をされて、今の氷見を昔と比べてどのように感じているか。

【参加者】

氷見公益会のお世話をさせていただいているが、その中で、2年前に天皇皇后陛下の表彰を受けた時に天皇陛下がおっしゃったのは、地域で人がしないことしなさいということだった。今、小学校の卒業生の桜の植樹をしているが、私が会長の時に1,000本くらい植えると言っていたが、目標は10万本と言いなさいと言われた。言葉というのは大きく言って地域の人を寄せると良いのではないか。今回もアサヒビールから100人体制で来てくれる。昔の戦でたくさん死んだ、そういう跡（高尾山切川寺）もあるので、そういうことも皆で伝えあって、もっともって氷見を支えることをすれば人が集まるのではないかと私なりに考えている。

【参加者】

消防団は今、定員割れをしている。若い人は夜勤や仕事、子どもの行事もあり、なかなか参加ができない。若い人に声をかけても、なかなか入り手がいない現状である。

また消防団も年長になってきている。今治も新居浜もないのに、西条市だけ定年制がある。そういう点もいずれは考えていってもらいたいと思う。

【参加者】

この間、高知大学から研修に来てもらい、社協はあまりPRできていないと言われて非常に辛かった。

社協は、民生委員と関係があり両輪である。民生委員は定年があり75歳で引退したが、その後、社協にまたどうかと言われ、現在やらせてもらい、また県のお世話もさせてもらっている。

そこで1点、年寄りがいると、若い人がやりにくいということを以前から言われている。早く退かないかと思っているが、なかなか若い人がやってくれにくい。昔と違って今は働きに行くからできない。どの団体もそうだと思う。

もう1点は、75歳が定年になっている。しかし、西条市の場合、県に認めてもらい、山間部においてはそれ以上でもいいということで、市内に80歳の方もおられる。皆さん、一生懸命、決まりがある中でやっているから集まりにくいので、もう少し定年を延ばせばいい。もっと元気な方がおいでなのだから、やってもらおうといいと思う。ただ、規約を変えるというのは大変なようだ。また、民生委員の改選期を11月1日ではなく3月いっぱい一緒にしてもらいたい。

民生委員のなり手が少ないことだが、過去にもいろいろあった。独居の老人に何かあった時に全部面倒見なければならぬ。これがとても苦になるのだということを経験した人から聞いた。秋田の民生委員が災害の時に民生委員がいなかったと、なぜ出ないのかということを経験したこともあった。今はそこまでは言われないが、それでも民生委員の仕事は多い。そのため、今は全国的に1期3年で辞める方が多いらしい。なり手がいないというのは、いろいろな問題があり複雑で、それを解決するのは大変だと思っている。だから、なってもらっている人には大変ありがたいと思っている。

だから、社協としては、もっとPRすることが非常に大事なので、それを何とかしなくてはと思っている。

【市民協働推進課】

社協も含め、民生委員もPRが必要ということと、今後、時代に合わせたルール変更は必要になってくるのかなというお話だった。

【参加者】

人権教育で、各地区で地区懇を行っているが大変集まりが悪い。なぜ行きたくないのかと問えば、行けば何か話さなくてはいけぬからだという。させられている、押し付けられている、という気持ちを持っていると前々から思っていた。

私は動員をかけることがとても嫌いだった。ある講演会で、動員をかけたたくさんの方が集まっていたが、それでいいのだろうか。魅力があれば行きたいはずだ。だから、市も、さらに魅力のある講演会や何か活動をするなど魅力アップを図っていただきたい。

地域を見てみると、私の自治会は少なくても18軒しかない。その中で頑張っているのは青年団だと思う。青年団イコール祭りの集まり、とだいたい氷見ではそうだと思うが、祭りのこ

とになると、10人も20人も自発的に集まって、集会所で話したり飲んだりしている。これが本当の集まりの姿だろうと思う。祭りだけでは本当にもったいないエネルギーを感じているので、防災の方にも結び付けばいいなと感じている。若い世代を私たち年長者が引っ張って導いていけるような、そういうような組織にしていっていいなと思っている。

【参加者】

地域の子どもは地域で育てるとというのが、青少年健全育成の活動の大きな目標である。そのために氷見でも連合自治会のご支援、公民館のご指導などにより、たくさんの行事を行っている。どうしたら地域の子どもが育つか、地域が活性化されるかが大切。ウォークアンドランや、マラソン大会、盆踊り大会、市長からも話があったが、ボルダリングの西部公園での新しい競技場での活用、そして西部公園での氷見の盆野球は100回記念となった。その中で子どもたちの成長を皆さんで守り育てていただいて、ありがたく思っている。

素晴らしいスポーツ少年団のリーダーに恵まれ、将来はプロ野球選手、あるいはオリンピック選手も生まれるのではないかと毎日期待して練習を見たり、お世話人にお礼を言ったりしている。そういう点では、非常に明るい展望で進んでいるのではないかとと思っている。西中学校の青年の決意の会では、一人の生徒が「私はプロ野球の選手になる」と意気揚々と目標を発表していた。地域の行事がそのような子どもを育てていると非常に感謝した。ボルダリングクラブも絶対にオリンピック選手が生まれると期待している。石鎚山では鎖を登る。ボルダリングができたことで、氷見、また西条市、愛媛県にとっては非常に夢のある素晴らしいキャッチフレーズができたのではないかとと思っている。

地域の子どもは地域で守り育てることをキャッチフレーズに頑張っており、PTA会長もいろいろお世話になっているが、問題点として愛護班活動や子ども会活動の中でのお母さん方のリーダーを育成することが必要じゃないかと感じている。

共稼ぎのご夫婦家庭が沢山あり、夏休みや冬休み、あるいは地域行事についてお世話ができないと頭から決めつけて、愛護班には参加させない、脱退したいというご家庭があり、愛護班の会長が悩んでいた。どのようにしたら皆さんが楽しく愛護班活動をして、将来の子どもの成長を助けてやることができるのか。

また、この新しい公民館ができたので、公民館長とも相談して野菜ソムリエをお招きして、氷見地区の農家で作っている野菜を活用した料理教室を夏休みに開催した。非常においしいピザができ喜んでくれた。本当に感謝している。今後とも公民館活動を通して青少年健全育成も軌道に乗っていけばいいのではないかとと思っている。何分、子どもが少ない時代だが、氷見の地域づくりにおいて青少年健全育成の活動をご支援いただいたことを非常に感謝し、お礼申し上げたい。また、今後ともよろしく願う。

【参加者】

卒寿の方のお祝い記念品が西条の物産の詰め合わせだったと思うが、施設に入っている方は飲食できない方もいるので、他の物の方が良いのではないか。見栄えがあって良いが、お世話する人が持って帰って個々に配るのだが重たい。施設に入っている方にも使えるような物を希望する。

先ほど言われた長寿祝い金だが、無くなって民生委員は大変助かった。配るのに受領印が必要なので、何回も何回も足を運んだ。挙句、3,000円を他のところに廻してくれた方がいいとの意見も沢山あった。お金は嬉しいが、そういう方だけではない。

6 まとめ・閉会

【市長】

改めて、多くの皆様の犠牲のうえに行政が成り立っている感覚、感謝の言葉しかない。

少しだけ、長寿祝い金の話だが、29年の敬老会で「お前か。3,000円を無くしたのは」と指をさされた。あえて申し上げると、前政権時の平成27年で終わらせる約束だったが延びた。申し訳ないが、皆様の子どもや孫の世代、そして、勿論、皆様のために使わせていただけないかと言ったら、その地区では大きな拍手をいただいた。市民の皆様の小さな負担で大きなサービスを提供する「小負担高福祉」が今までの西条市だった。例えば、ごみ袋が無料なんという市はない。しかし他から見たら、ごみを少量化しようとしているのに、なぜごみ袋をタダで配っているのかと、都会から来られた先生方のご意見がある。このことも、市民の皆様には無料が当たり前になっているので変えようとする、必ず抵抗がある。だが、私はもう覚悟した。指をさされてもいい。その代わり、持続可能なまちづくりができるのであれば、

どうぞ指してくれと。そんな覚悟を持ってこれから痛みを伴う改革をしていかななくてはならない。

今までどおりのサービスはできないが、そうしなければ、この氷見が、この西条がもたなくなる。このことは丁寧に説明をしたい。使用料についても、坊っちゃんスタジアムは有料でナイターだったら 100 万円かかる。西条ではどうか。ただみたいに安い、だから非常に苦しくなるということ。

そういった中で、まちづくりも工夫をしていかなければならないということに繋がっていく。今日ご意見でもいただいたが、自分たちがやろうと思うことが楽しければ、多分参加してくれるし増えていくのだと思うが、義務的にやらなくてはならないことは、しんどいだろうと思う。だからこそ、皆様からヒントや仕組みづくりをいただき、人を呼び込めるものを考えたい。

価値観も大きく時代の流れとともに変わってきている。そういった中で、氷見クラブを立ち上げていただき、この議論をきっかけに幅広い皆様に参画をいただきながら、また若い人にも意見を言ってもらいながら、どうして行くかという話をしていただいて、そして、この組織が皆様の負担の軽減に繋がるようになっていけばというのが私の思いである。

また、働く年齢が上がり、役をする人が少ないとの話もあったが、市の職員も定年が 65 歳になって、その後に公民館で頑張ってくれる人も減ってくるかもしれない。この公民館も、会社にお願いで運営をしていかななくてはならない時代が来るかもしれない。そこを少しずつ皆様の犠牲の中で、そして行政もしっかり協働しながら運営をしていきたいと思っている。行政もしっかり伴走することをお約束させていただきたい。

負担軽減については、いろいろな見直しをしていかななくてはならないと思っている。例えば、愛護班と青少年健全育成、ひよっとすると PTA も、もともとの役割は違っていたが、同じところが出てきている。他にも、健康づくり推進員協議会とスポーツ推進委員会も役割が重なる部分がある。このようなどころを少し省くことによって、負担軽減できないかとも考えつつ、皆様のご意見を頂戴しながら市全体として考えいかななくてはならないので、ちょっとエネルギーがいる。

この公民館ができてよかったと思える、ここに来れば心のよりどころになる、健康が買える、そんな公民館の運営にもチャレンジしていきたいと思っているので、どうかこれからも甘えるところはあるが、しっかり行政としてもやってまいるので、よろしくお願いを申し上げます。本日は感謝申し上げます。

【連合自治会長】

本日はお忙しい中、皆様、玉井市長に感謝申し上げます。

12 月 22 日の総合防災訓練では、吉本の芸人さんが来て、司会進行していただくようになっているので、多分、堅苦しい防災訓練ではなく、楽しい防災訓練になろうかと思う。1 人でも多くの方の参加をお願いしたい。

個人的には、放っておいたら暴走する性格なので、ブレーキかけてよとはよく言っているが、いろいろな取り組みをするにあたって一番嫌いなのはやらされ感なので、主体性をもってほしいと何度もお願いをしている。たちまち氷見の宿題は、景観まちづくり、地域づくり、12 月に控えている防災訓練、この防災訓練を毎年やってほしいという話も市からある。いきなりは出来ないかもしれないが、最初は 2 年に 1 回ずつくらい、訓練も初期消火とか水防訓練等あるが、多分一番大事なのは避難所訓練だろうと思う。また企画をして来年度以降進めていきたいと思っている。

来年度のタウンミーティングは、住民の皆様のお声が届けられるように準備に入りたい。

そんなことで、大事なことは次世代へいい形でバトンタッチをするためにこのような会を通じて地域づくりを進めていきたいと思っている。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

